KORG

SP-200

デジタル・ピアノ



取扱説明書

Ⓙ ④

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的は注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人で行ってください。

小さなお子様がご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。

⚠警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- **ACアダプターのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。**
- **ACアダプターのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、ACアダプターのプラグへ容易に手が届くようにする。**
- **次のような場合には、直ちに電源を切ってACアダプターのプラグをコンセントから抜く。**
  ○ACアダプターが破損したとき
  ○異物が内部に入ったとき
  ○製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、または営業技術課へ修理を依頼してください。
- **本製品を分解したり改造したりしない。**
- **修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。**
- **ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものを乗せない。**
  コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**
- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**
- **雨天時の野外などのような湿気の多い場所で、使用や保管はしない。**
- **本製品の上に液体の入ったもの（水や薬品等）を置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**
- **濡れた手で本製品を使用しない。**

⚠注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性
または物理的損害が発生する可能性があります

- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **ＡＣアダプターをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。**
- **長時間使用しないときは、ＡＣアダプターをコンセントから抜く。**
- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。
- **地震時は本製品に近づかない。**
- **本製品に前後方向から無理な力を加えない。**
  本製品が転倒する危険性があります。

データについて

本製品の電源をオフにすると、全ての
パラメータはリセットされます。

取扱説明書の表記について

本体のスイッチ類は[　　]で括っています。
は使用上の注意を表します。

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。
また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

目次

はじめに

主な特徴

30種類の高品位サウンド

ステレオ・コンサート・グランドピアノを含む表現力豊かな高品質の音色を30種類内蔵しています。また、同時に2つの音を重ねて演奏できるレイヤー・モードも搭載しています。

エフェクト

コンサート・ホールの自然な雰囲気をシミュレーションすることができるリバーブと、音の広がりを加えることができるコーラスの2つのエフェクトを搭載しています。

ダンパー・ペダル・シミュレーション

付属のペダルでアコースティック・ピアノと同じようダンパー効果が得られます。また、別売のダンパー・ペダルDS-1Hを使うと、ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます。

メトロノーム

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベル音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

タッチ・コントロール機能

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを3種類の中から選択できます。

音律

平均律の他に、2種類の古典音律（キルンベルガー、ヴェルクマイスター）を選択することによって、古典音楽等の再現も可能になります。また、音色にアコースティック・ピアノを選んだときは、ストレッチ・チューニングが自動的に選ばれます。

音の高さの調節

トランスポーズ機能により移調を、ピッチ・コントロール機能により音の高さの微調整を行うことができます。

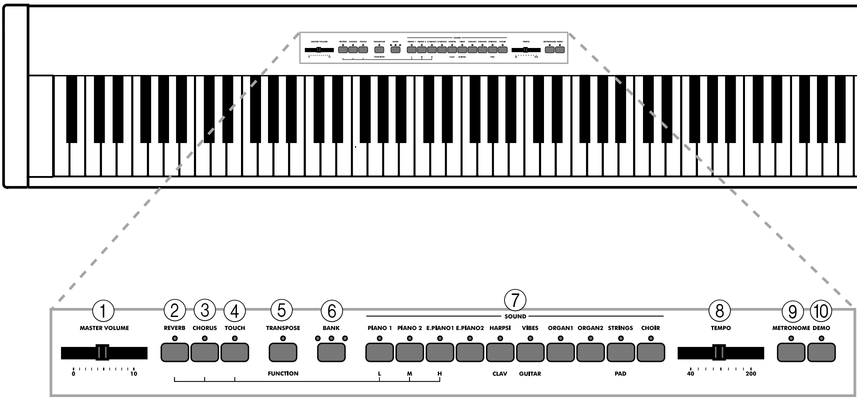
MIDIの装備

電子楽器やコンピュータの間で、演奏情報のやりとりを行う統一規格MIDIを装備しています。MIDIを使うと、接続した機器間で相互にコントロールすることができ、SP-200を16パート・マルチティンバー音源としても使用することができます。

第1章

各部の名称とその機能

フロント・パネル



① **[MASTER VOLUME]スライダー：[OUTPUT]、[PHONES]**端子から出る音量をコントロールします。

② **[REVERB]スイッチ：**音に残響を加えるリバーブをオン、オフします。

③ **[CHORUS]スイッチ：**音に広がりを与えるコーラスをオン、オフします。

④ **[TOUCH]スイッチ：**鍵盤のタッチ（感度）を選びます。

⑤ **[TRANSPOSE / FUNCTION]スイッチ：**移調するとき、ピッチ、音律やMIDIに関する設定等に使います。

電源をオフにすると、全て工場出荷時の設定に戻ります。

⑥ **[BANK]スイッチ：**使用する音色を3つの中から選びます。

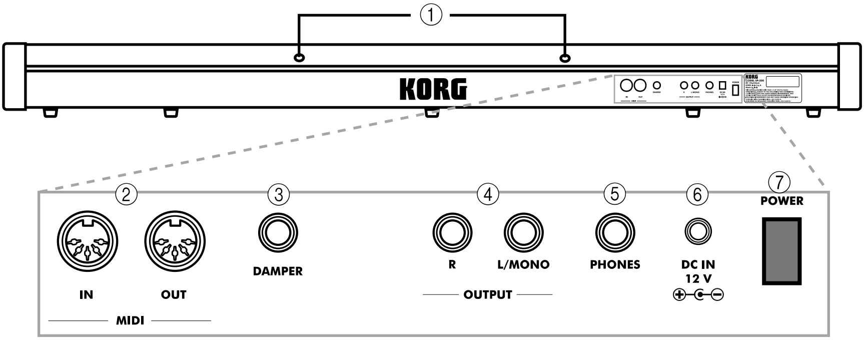
⑦ **[SOUND]スイッチ：**音色を選びます。30（10×3バンク）音色から選択します。同時に2つの音色で演奏（レイヤー・モード）することもできます。

⑧ **[TEMPO]スライダー：**メトロノームのテンポを調節します。

⑨ **[METRONOME]スイッチ：**メトロノームをスタート、ストップします。

⑩ **[DEMO]スイッチ：**デモ・ソングを演奏します。**[SOUND]**スイッチで30（10×3グループ）のデモ・ソングを選ぶことができます。

リア・パネル



① **譜面立て用穴:**付属の譜面立てを穴に挿入して取り付けてください。

譜面立て用穴はガタツキを押さえるため、多少きつめに作られています。取り付け時は少し強めに挿入してください。

② **[MIDI(IN、OUT)]端子:**他のMIDI機器(シーケンサ、キーボードなど)を接続するときに使用します。

[IN]: MIDI情報を受信します(SP-200をコントロールする外部MIDI機器のMIDI OUTと接続します)。

[OUT]: MIDI情報を送信します(SP-200からコントロールする外部MIDI機器のMIDI INと接続します)。

③ **[DAMPER]端子:**付属のペダルを接続します。

④ **[OUTPUT(L/MONO、R)]端子:**シグナル・コードを接続する音声の出力です。アンプ付きスピーカーのINPUT端子や音響機器のAUX INなどにつないでください。モノラルで使用するときは**[L/MONO]**に接続してください。**[OUTPUT]**の出力は**[MASTER VOLUME]**スライダーで調整してください。

⑤ **[PHONES]端子:**ステレオ・ヘッドホン(標準プラグ)を接続してください。

⑥ **[DC IN 12V]:**付属のACアダプターをこの端子に接続してください。

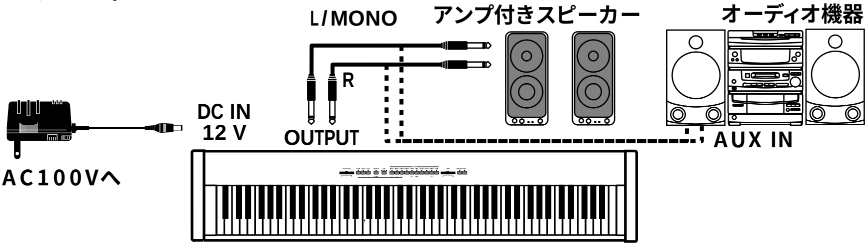
⑦ **[POWER]スイッチ:**電源をオン、オフします。

第2章

演奏する前の準備

接続

シグナル・コードをSP-200の**[OUTPUT]**端子に差し込み、アンプ付きスピーカーのINPUT端子や音響機器等に接続してください。モノラルで接続するときは、**[L/MONO]**側に接続してください。SP-200の音質を活かすためにも、ステレオ接続をおすすめします。
付属のACアダプターを**[DC IN 12V]**端子に接続し、アダプター本体をコンセントに接続してください。



ヘッドホンを使うときは

夜間などの周囲へ伝わる音が気になるときは、ヘッドホンをお使いください。本体後面にある**[PHONES]**端子に、ステレオ・ヘッドホンのプラグ（標準プラグ）を差し込みます。
ミニ→標準の変換プラグのついたヘッドホンをご使用の場合、プラグの抜き差しは変換プラグを持って行ってください。

ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。

電源をオンにする

[POWER]スイッチを押してオンにします。電源を入れると、フロント・パネルの**[SOUND]**や**[BANK]**スイッチ等の上のランプが点灯します。
オフにするときは、もう一度**[POWER]**スイッチを押してください。

電源をオフにすると、全て工場出荷時の設定に戻ります。

音量の調節

[MASTER VOLUME]スライダーを動かして音量を調整します。音量を小さくするときは左側へ、大きくするときは右側へスライダーを動かします。これにより**[OUTPUT]**端子と**[PHONES]**端子の出力が調整できます。

***[MASTER VOLUME]**スライダーは**0**の位置から徐々に音量を上げてください。*

デモ・ソングの演奏を聴いてみましょう

SP-200には、3つ（1、2、3）のグループにそれぞれ10、合計30のデモ・ソングが入っています。デモ・ソングの演奏を聴いて、SP-200の豊かな音色とその表現力を確認してください。

[SOUND]スイッチ	グループ1	グループ2	グループ3
[PIANO 1]　(1)	F.メンデルスゾーン プレリュード Op.104a-2	KORGオリジナル Reflection	C.ドビュッシー アラベスク第1番
[PIANO 2]　(2)	F.ショパン ノクターン Op.9-2	S.ジョプリン ザ・エンターテイナー	J.S.バッハ 2声のインベンション No.13
[E.PIANO 1]　(3)	C.ドビュッシー 月の光	KORGオリジナル Jumper	F.ショパン 幻想即興曲 Op.66
[E.PIANO 2]　(4)	KORGオリジナル Lullaby for a Little Star	KORGオリジナル All the Ones You Don't Know	J.S.バッハ プレリュード（平均律第1番より）
[HARPSI /CLAV]　(5)	L.v.ベートーヴェン エリーゼのために	J.S.バッハ イタリア協奏曲	KORGオリジナル Rubber Bob
[VIBES /GUITAR]　(6)	F.ショパン 別れの曲 Op.10-3	KORGオリジナル Jazz in Spain	R.シューマン トロイメライ Op.15-7
[ORGAN 1]　(7)	W.A.モーツァルト ソナタ K.331 第3楽章 「トルコ行進曲」	KORGオリジナル Cool "B"	F.メンデルスゾーン 春の歌 Op.62-6
[ORGAN 2]　(8)	F.ショパン ワルツ 第6番 変ニ長調 「小犬」Op.64-1	F.メンデルスゾーン ウェディングマーチ	KORGオリジナル Sunflowers
[STRINGS /PAD]　(9)	KORGオリジナル Old Feather Blues	J.S.バッハ G線上のアリア	P.D.パラディーシ トッカータ イ長調
[CHOIR]　(10)	KORGオリジナル Noise of Time	KORGオリジナル Voice Texture	KORGオリジナル Wet Raccoon Rag

※KORGオリジナル 作曲/演奏:M.Tempia

すべてのデモ・ソングを演奏する

ワンタッチですべてのデモ・ソングの演奏を聴くことができます。

1. **[DEMO]**スイッチ(または、**[FUNCTION]**スイッチを押しながらE1の鍵盤）を押してください。**[SOUND]**スイッチの上のランプが左から右に順番に点滅します。
   約3秒後、デモ・ソングのグループ1-1から順番に演奏を開始します。
   グループ3-10の演奏が終わると、再びグループ1-1から演奏を続けます。

2. 演奏しているときに、そのグループ内の他のデモ・ソングに切り替えるときは、そのデモ・ソングが割り当てられている**[SOUND]**スイッチを押してください。たとえば、デモ・ソング1が演奏されているときに、デモ・ソング10に切り替えたくなったときは、**[SOUND]**スイッチの**[CHOIR]**を押してください。デモ・ソングの演奏は、10に切り替わり順番に演奏を続けます。

3. 演奏を止めるときは**[DEMO]**スイッチを押してください。

特定のデモ・ソングを演奏する

聴きたいデモ・ソングから演奏をはじめることができます。

1. 最初に聴きたいデモ・ソングのグループを選んでください.
   ・グループ1を選ぶには、**[DEMO]**スイッチを一度押してください。
   [SOUND]スイッチの上のランプが、左から右に順番に点滅します。
   ・グループ2を選ぶには、**[DEMO]**スイッチを二度押してください。
   [SOUND]スイッチの上のランプが同時に点滅します。
   ・グループ3を選ぶには、**[DEMO]**スイッチを三度押してください。
   隣り合った**[SOUND]**スイッチの上のランプが交互に点滅します。

2. 選んだグループのなかで、聴きたいデモ・ソングが割り振られた**[SOUND]**スイッチを押してください。

   曲を選ばないまま約3秒たったときは、自動的にデモ・ソングのグループ1-1からグループ3-10の順番で繰り返し演奏します。

選んだデモ・ソングの演奏が終わると、そのグループのデモ・ソングが順番に繰り返し演奏されます。演奏を止めるときは**[DEMO]**スイッチを押してください。

*デモ・ソングの演奏中に鍵盤を弾いて音色を出すことはできますが、**[SOUND]**スイッチでSP-200の音色を変えることはできません。*

デモ・ソングの演奏中はエフェクト(リバーブ、コーラス)の設定を変えることはできません。

デモ・ソングの演奏のテンポを調整する

[TEMPO]スライダーを使ってデモ・ソングのテンポを調節することができます。ただし、デモ・ソングのテンポは、**[TEMPO]**スライダーの目盛りと一致しません。

デモ・ソングが切り替わると、その曲のオリジナル・テンポに戻ります。

デモ・ソングの演奏中は、メトロノームを使えません。

第3章

弾いてみましょう

音色を選ぶ(シングル・モード)

SP-200は高品位な音色を30(10×3バンク)種類の中から選ぶことができます。

1. 弾きたい音色の**[SOUND]**スイッチを1つ選びます。選んだスイッチの上のランプが点灯します。
2. **[BANK]**スイッチを押して3種類の中から音色を選びます。押すたびに**[BANK]**スイッチの上のランプが左から順に点灯し、1、2、3、1...とバンク(音色)が切り替わります。

たとえば、エレクトリック・グランドピアノの音色を選ぶには、**[SOUND]**スイッチの**[PIANO 2]**を押してスイッチの上のランプを点灯させます。そのあと**[BANK]**スイッチを2回押してバンク3(エレクトリック・グランドピアノ)を選び**[BANK]**スイッチの上の右ランプを点灯させます。なお、バンクは選び直すたびに、それぞれの**[SOUND]**スイッチに記憶されます。

*電源をオフにすると、各**[SOUND]**スイッチの音色のバンクは1になります。*

[SOUND]スイッチ	バンク1 左ランプ点灯	#	バンク2 中ランプ点灯	#	バンク3 右ランプ点灯	#
[PIANO 1]	グランドピアノ1	2	ブライトピアノ	2	グランドピアノ2	1
[PIANO 2]	クラシックピアノ	2	ホンキートンク ピアノ	2	エレクトリック グランドピアノ	1
[E.PIANO 1]	ステージ エレクトリックピアノ	1	クラブ エレクトリックピアノ	2	シン・エレクトリック ピアノ	2
[E.PIANO 2]	デジタル エレクトリックピアノ	1	60 ’s エレクトリックピアノ	1	ヴィンテージ エレクトリックピアノ	2
[HARPSI/CLAV]	ハープシコード	1	クラビ	1	ワウ・クラビ	1
[VIBES/GUITAR]	ビブラホン	1	マリンバ	1	アコースティック ギター	1
[ORGAN 1]	ジャズ・オルガン1	2	ジャズ・オルガン2	2	ジャズ・オルガン3	2
[ORGAN 2]	チャーチ・オルガン1	3	チャーチ・オルガン2	1	チャーチ・オルガン3	1
[STRINGS/PAD]	ストリングス	1	スロー・ストリングス	2	ウォーム・パッド	2
[CHOIR]	クァイア Hoo	1	クァイア Doo	2	クァイア・パッド	2

(#)は、音色が使用しているオシレーターの数です(P.26「最大発音数について」参照)

2つの音色を重ねて演奏する(レイヤー・モード)

2つの音色を重ねた音で演奏することができます。これを、レイヤー・モードと呼びます。

重ねる音色の**[SOUND]**スイッチの2つを同時に押してください。選ばれた2つの音色のスイッチの上のランプが点灯します。

バンクを変えた音色を使うときは、シングル・モードで各**[SOUND]**スイッチを押したときのバンク(音色)を前もって選んでください。
たとえば、グランド・ピアノ2とジャズ・オルガン2の音色を重ねて演奏するときは、**[PIANO 1]**にはバンク3(グランド・ピアノ2)を、また**[ORGAN 1]**にはバンク2(ジャズ・オルガン2)を選んだ後、両方のスイッチを同時に押してください。

⚠ *レイヤー・モードを選ぶと、選んだ音色のオシレーター数によって同時発音数が制限されます(P.26「最大発音数について」参照)。*

⚠ *同じ**[SOUND]**スイッチに割り振られた音色(**[PIANO 1]**のグランドピアノ1とブライト・ピアノなど)を選ぶことはできません。*

シングル・モードに戻るには

[SOUND]スイッチで1つだけ音色を選ぶとシングル・モードに戻ります。

レイヤー・モードで音のバランスを調節するには

レイヤー・モードで音のバランスを調節するために、重ねる音色の**[SOUND]**スイッチを2つ押してください。このとき、音量を小さくしたい側の**[SOUND]**スイッチを押しながら、音量を大きくしたい側の**[SOUND]**スイッチを何度か押して音量を調整します。

⚠ *電源をオフにするとレイヤー・モードの設定は消去されます。レイヤー・モードの設定はデータ・ダンプ機能(P.24「MIDIデータ・ダンプ」参照)で保存することができます。*

エフェクト(リバーブとコーラス)

SP-200は、リバーブとコーラスの2つのエフェクトを内蔵しています。
リバーブは音に残響と深みを加え、コンサートホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。
コーラスは音にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドにします。
エフェクトの設定は音色を切り替えても記憶されています。

⚠ *レイヤー・モードのときは、シングル・モードで最後に選んだエフェクトの設定が記憶されます。また、レイヤー・モードでエフェクトの設定に変更を加えても、シングル・モードに戻ると元の設定に戻ります。*

⚠ *リバーブを使用すると、最大同時発音数が10少なくなります。また、コーラスを使った場合は最大同時発音数が3少なくなります(P.26「最大発音数について」参照)。*

⚠ *電源をオフにするとエフェクトの設定は工場出荷時設定に戻ります。エフェクトの設定はデータ・ダンプ機能(P.24「MIDIデータ・ダンプ」参照)で保存することができます。*

1. リバーブをオンにするときは**[REVERB]**スイッチを、コーラスをオンにするときは**[CHORUS]**スイッチを押してください。それぞれのスイッチの上のランプが点灯します。

2. リバーブやコーラス効果の設定を変えるときは、**[REVERB]**または、**[CHORUS]**スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[PIANO 1]**（L）、**[PIANO 2]**（M）、**[E.PIANO1]**（H）のいずれかのスイッチを押します。

[SOUND]スイッチ	リバーブ効果の設定	コーラス効果の設定
[PIANO 1]（L）	浅い	浅い
[PIANO 2]（M）	標準	標準
[E.PIANO1]（H）	深い	深い

3. **[REVERB]**スイッチを押しているときは、選ばれているリバーブの設定が、また**[CHORUS]**スイッチを押しているときは選ばれているコーラスの設定が**[SOUND]**スイッチ（**[PIANO 1]**、**[PIANO 2]**、**[E.PIANO1]**）の上のランプの点灯で確認できます。

4. リバーブをオフにするときは**[REVERB]**スイッチを、またコーラスをオフにするときは**[CHORUS]**スイッチを押してください。それぞれのスイッチの上のランプが消灯します。

ダンパー・ペダル

付属しているペダルを、ダンパー・ペダルとして使うことができます。また、別売のダンパー・ペダルDS-1Hを使うと、ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます。（ハーフ・ペダル効果）。

レイヤー・モードではダンパー・ペダルの適用をどちらかの音色だけにすることもできます。

ペダル設定は電源をオフにするとリセットされます。ペダル設定はデータ・ダンプ機能（P.24「MIDIデータ・ダンプ」参照）で保存することができます。

1. **[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチを押しながらダンパー・ペダルを踏んでください。ペダルを踏むたびに、レイヤーで選んでいる**[SOUND]**スイッチの上のランプが交互または同時に点灯します。
2. ダンパーをかけたい**[SOUND]**スイッチの上のランプが点灯したときに**[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチを放してください。

メトロノーム

練習に便利な拍子やテンポなどをかえることができるメトロノームを内蔵しています。

メトロノームのオン、オフ

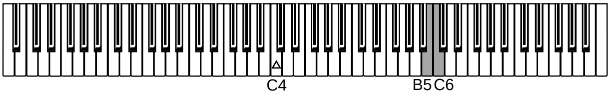
[METRONOME]スイッチを押すと、ランプが点灯し、**[TEMPO]**スライダーの位置のテンポでメトロノームがスタートします。メトロノームを止めるときは、もう一度**[METRONOME]**スイッチを押してランプを消灯します。

メトロノームの音量を調節する

メトロノームの音量を下げるときは、**[METRONOME]**のスイッチを押しながら**[SOUND]**スイッチの**[STRINGS / PAD]**（またはB5の鍵盤）を何度か押してください。

音量を上げるときは**[METRONOME]**スイッチを押しながら**[SOUND]**スイッチの**[CHOIR]**（またはC6の鍵盤）を何度か押してください。

音量を標準に戻すときは、同時に、**[METRONOME]**スイッチを押しながら、**[STRINGS / PAD]**と**[CHOIR]**スイッチ（またはB5とC6の鍵盤）を同時に押してください。



スイッチ（鍵盤）	設定	スイッチ（鍵盤）	設定
[STRINGS / PAD]（B5）	音量を下げる	**[CHOIR]**（C6）	音量を上げる

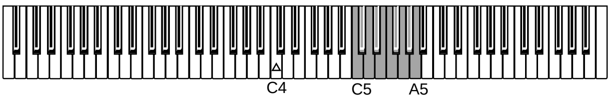
テンポの調整

テンポは♩= 40〜 200の範囲で**[TEMPO]**スライダーや鍵盤で数値を入力し、調節することができます。

テンポの数値入力

[TEMPO]スライダーでおおよそのテンポを設定することはできますが、正確に数値でテンポ値を設定するには鍵盤を使います。

1. **[METRONOME]**スイッチを押し続けてください。
2. 対応するC5〜A5の鍵盤を押して3桁の数字でテンポを指定します。2桁の数字のときにはまず0を選んでください。



鍵盤	数字	鍵盤	数字
C5	0	C♯5	1
D5	2	D♯5	3
E5	4	F5	5
F♯5	6	G5	7
G♯5	8	A5	9

例1：テンポを168にするには**[METRONOME]**スイッチを押しながら、C♯5(1)、F♯5(6)、G♯5(8)の順に鍵盤を押します。

例2：テンポを85にするには**[METRONOME]**スイッチを押しながら、C5（0）、G♯5(8)、F5(5)の順に鍵盤を押します。

拍子の設定

小節の1拍めにアクセント音が入ります。

[SOUND]スイッチ	拍子
[PIANO 1]	2拍子 (2/4, 2/8...)
[PIANO 2]	3拍子 (3/4, 3/8...)
[E.PIANO 1]	4拍子 (4/4, 4/8...)
[E.PIANO 2]	6拍子 (6/4, 6/8...)

1. **[METRONOME]**スイッチを押しながら、設定する拍子に対応した**[SOUND]**スイッチを押します。小節の最初にアクセント音がはいります。
2. アクセント音を消すには**[METRONOME]**スイッチを押したときにランプが点灯した拍子の設定の**[SOUND]**スイッチを押してください。

[METRONOME]スイッチを押しているときは、選ばれている拍子の設定が**[SOUND]**スイッチの上のランプの点灯で確認できます。

電源をオフにすると拍子（アクセント音）無しの設定になります。

アクセント音の選択

1. **[METRONOME]**スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[VIBES / GUITAR]**を押してください。アクセント音はベル音になり**[VIBES / GUITAR]**の上のランプが点灯します。
2. 標準のアクセント音に戻すときは、**[METRONOME]**スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[HARPSI / CLAV]**を押してください。このとき**[HARPSI / CLAV]**の上のランプが点灯します。

[METRONOME]スイッチを押しているときは、選ばれているアクセント音（標準、ベル）の設定が**[SOUND]**スイッチの上のランプの点灯で確認できます。

電源をオフにすると標準のアクセント音の設定になります。

第4章

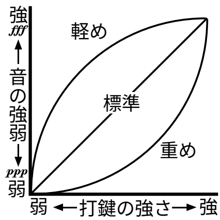
他の機能

鍵盤タッチ・コントロールの設定

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。

設定を変えるときは、**[TOUCH]**スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[PIANO 1]**（L）、**[PIANO 2]**（M）、**[E.PIANO 1]**（H）のいずれかのスイッチを押します。軽め、または重めが選ばれているときは**[TOUCH]**スイッチの上のランプが点灯します。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押ししながら、B3、C4、D4の鍵盤を押して切り替えることもできます。



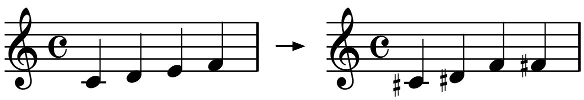
[SOUND]スイッチ	鍵盤	タッチコントロールの設定
[PIANO 1]（L）	B3	軽め、弱く弾いても強音が出せるタッチ
[PIANO 2]（M）	C4	標準、普通のピアノ・タッチ
[E.PIANO 1]（H）	D4	重め、強く弾かないと強音が出せないタッチ

[TOUCH]スイッチを押しているときは、選ばれているタッチ・コントロールの設定が**[SOUND]**スイッチの上のランプの点灯で確認できます。

電源をオフにすると標準の設定に戻ります。

トランスポーズ

キーを変える（移調する）ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。11半音の範囲でずらすことができ、1半音上げた場合、下図の左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



電源をオフにするとトランスポーズは解除されます。

1. **[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチを押ししながら、F#6～F7中から移調するキーの鍵盤を押します。
2. C7以外の鍵盤を押えると**[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチのランプが点灯し、トランスポーズされたことを示します。
3. 押さえた鍵盤の音の高さがC7の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。

4. もとの設定に戻すときは、**[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチを押しながら、C7の鍵盤を押します。このとき、スイッチのランプが消灯し、トランスポーズが解除されます。

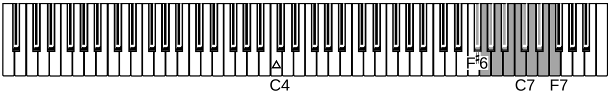
F♯6の鍵盤
−6半音。C7の鍵盤の位置でF♯6の音が鳴ります。

↔

C7の鍵盤
±0。
通常の状態です。

↔

F7の鍵盤
＋5半音。C7の鍵盤の位置でF7の音が鳴ります。



鍵盤	キーの高さ
F♯6 〜 B6	6〜 1半音下げる。
C7	標準（トランスポーズなし）
C♯7〜 F7	1 〜 5半音上げる

ピッチ・コントロール

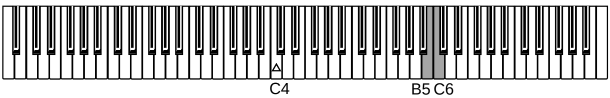
ピッチ（音の高さ）の微調整を行ないます。他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。0.5Hzステップで±12.5Hz（427.5Hz〜452.5Hz）までずらすことができます。基準ピッチはA=440Hzです。

電源をオフにすると、基準ピッチ(A4=440Hz) に戻ります。

1. **[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチを押しながら、B5またはC6の鍵盤を押します。

2. B5の鍵盤を押すたびに0.5Hzずつピッチが下がり、C6の鍵盤を押すたびに0.5Hzずつピッチが上がります。

3. 基準ピッチに戻すときは、**[TRANSPOSE/FUNCTION]**スイッチを押しながら、B5とC6の鍵盤を同時に押します。



鍵盤	ピッチ
B5	押すたびに0.5Hz下がる
B5+C6	基準ピッチ(A4 = 440Hz)
C6	押すたびに0.5Hz上がる

音律を選ぶ

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、キルンベルガーとヴェルクマイスターという古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている平均律の3種類の音律が選択できます。

[TOUCH]スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[HARPSI / CLAV]**または、**[VIBES / GUITAR]**を押します。このとき選んだスイッチの上のランプが点灯します。

[SOUND]スイッチ	**音律**
[HARPSI / CLAV]	**ヴェルクマイスター:**ドイツ人のオルガニストで音楽理論家のアンドリアス・ヴェルクマイスターによる、ヴェルクマイスターIIIスケールです。これはバロック時代後期に比較的自由な移調を目的として考案されたものです。
[VIBES / GUITAR]	**キルンベルガー:**18世紀初めに、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したキルンベルガーIIIスケールです。これは主にハープシコードのチューニングに使用されます。
[HARPSI / CLAV] [VIBES / GUITAR] 両方のランプが消灯	**平均律**:現在の鍵盤楽器のほとんどすべてがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

平均律に戻すときは、**[TOUCH]**スイッチを押しながら、スイッチのランプが点灯している**[HARPSI / CLAV]**または、**[VIBES / GUITAR]**を押してランプを消灯します。

[TOUCH]スイッチを押しているときは、該当する音律の**[SOUND]**スイッチの上のランプが点灯します。これにより設定を確認することができます。

電源をオフにすると、音律は平均律に戻ります。

ストレッチ・チューニングについて

[PIANO 1]、**[PIANO 2]**の音色は、ストレッチ・チューニングを用いています。
ストレッチ・チューニングは、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。これは、アコースティック・ピアノが通常調律される方法です。

第5章

MIDI

MIDI(ミディ)とは？

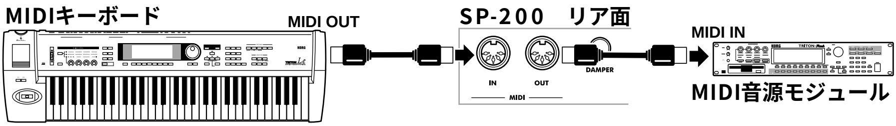
MIDI(Musical Instrument Digital Interface)は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

MIDIでなにができるの？

MIDIを利用するとSP-200から他のMIDI機器をコントロールしたり、他のMIDI機器からSP-200の音源を鳴らしたりすることができます。また、シーケンサーや複数のMIDI機器を組み合わせることで、複雑なアンサンブルを楽しむこともできます。

MIDIの接続

MIDI情報をやりとりするには、MIDIケーブル(別売)を使います。このケーブルを、SP-200のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あります。



MIDI OUT　MIDI情報を送信します。SP-200の鍵盤を弾いたときに出力されるMIDI情報で外部MIDI機器の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。SP-200のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDI IN　MIDI情報を受信します。外部MIDI機器(MIDIキーボードやシーケンサーなど)で、SP-200の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。SP-200のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDIの基本設定

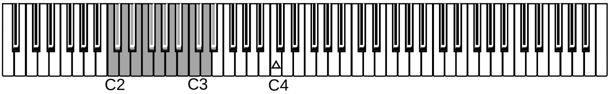
電源をオンにしたときは、SP-200のMIDIパラメータは下記の設定になっています。

パラメータ	設定
送信チャンネル	1
受信チャンネル	全て受信(1-16)
ローカル	オン
オムニ	オフ

MIDIチャンネルの変更

MIDIには、データのやりとりが可能な16のチャンネルがあります。SP-200とデータのやりとりをするには、どのチャンネルでデータを送受信するかを選ぶ必要があります。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、選ぶチャンネルが割り振られた鍵盤C2～D#3の1つを押します。



鍵盤	チャンネル	鍵盤	チャンネル
C2	1	C#2	2
D2	3	D#2	4
E2	5	F2	6
F#2	7	G2	8
G#2	9	A2	10
A#2	11	B2	12
C3	13	C#3	14
D3	15	D#3	16

電源をオンににしたときは、自動的にチャンネル1が選ばれます。

レイヤー・モードのときは、2つの音色は、別々の続いたMIDIチャンネルが割り振られます。たとえば、MIDIプログラムチェンジ・ナンバー(PC#)が小さい側の音色がチャンネル7ならば、PC#が大きい側の音色はチャンネル8が、またPC#が小さい側の音色がチャンネル16ならば、PC#が大きい側の音色はチャンネル1が選ばれます。

マルチティンバー音源としてSP-200を使う

SP-200は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パート・マルチティンバー音源として動作することができます。

1. SP-200のMIDI INとシーケンサーなどのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。
2. 接続したシーケンサーなどからMIDIデータを送信します。接続するシーケンサーなどからの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

演奏データと一緒にプログラムチェンジ・メッセージを受信すると、そのプログラムナンバーに対応するSP-200の音色で演奏されます。ただし、プログラムチェンジの設定ががイネーブルになっているときに限ります。

ローカル・オン/オフ

ローカル・オンでは、SP-200の鍵盤を弾くと演奏の音が鳴り、同時にMIDIデータを送信します。ローカル・オフでは、SP-200を弾いても演奏の音は鳴らず、データだけを送信します。通常はローカル・オンに設定します。

SP-200をマスター・キーボードとして使用する場合、たとえばSP-200を接続したMIDI機器（キーボード、音源モジュール等）の音色で演奏するときは、SP-200をローカル・オフに設定します。SP-200は鳴りませんが、接続したMIDI機器の音色で演奏されます。

SP-200を音源として使用する場合、たとえばSP-200をシーケンサーと接続して、シーケンサー側でエコーバック（シーケンサーが受信したデータを送り返す動作）を設定した場合、戻ってきたデータで二重に鳴るのを防ぐときは、ローカル・オフに設定します。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[PIANO 1]**を押してください。押すたびにローカルの設定がオン、オフをくりかえします。

ローカルの設定	[PIANO 1]の上のランプ
ローカル・オン	点灯
ローカル・オフ	消灯

電源をオフにすると、設定はローカル・オンに戻ります。

プログラムチェンジ

接続したMIDI機器のプログラム番号を、SP-200から切り替えたり、接続したMIDI機器から、SP-200のプログラム番号を切り替えます。

プログラムチェンジの送信

接続した外部MIDI機器のプログラム番号を、SP-200から切り替えます。**[SOUND]**スイッチと**[BANK]**スイッチで音色を選ぶと、表のように0〜29のMIDIプログラムチェンジ・ナンバー（PC#）を送信します。

プログラムチェンジの受信

外部からMIDIプログラムチェンジ・ナンバー（PC#）を受信すると、表のように、SP-200の音色が切り替わります。SP-200は、0〜29のプログラムチェンジ・ナンバーを受信したときに音色が切り替わります。

外部MIDI機器より30以上のプログラムチェンジ・ナンバーを受信してもSP-200の音色は切り替わりません。

PC#	[SOUND]スイッチ	バンク	音色
0	**[PIANO 1]**	1	グランドピアノ1
1		2	ブライトピアノ
2		3	グランドピアノ2
3	**[PIANO 2]**	1	クラシック･ピアノ
4		2	ホンキートンク･ピアノ
5		3	エレクトリック･グランドピアノ
6	**[E.PIANO 1]**	1	ステージ･エレクトリックピアノ
7		2	クラブ･エレクトリックピアノ
8		3	シン･エレクトリックピアノ
9	**[E.PIANO 2]**	1	デジタル･エレクトリックピアノ
10		2	60's エレクトリックピアノ
11		3	ヴィンテージ･エレクトリックピアノ
12	**[HARPSI/CLAV]**	1	ハープシコード
13		2	クラビ
14		3	ワウ･クラビ
15	**[VIBES/GUITAR]**	1	ビブラホン
16		2	マリンバ
17		3	アコースティック･ギター
18	**[ORGAN1]**	1	ジャズ･オルガン1
19		2	ジャズ･オルガン2
20		3	ジャズ･オルガン3
21	**[ORGAN2]**	1	チャーチ･オルガン1
22		2	チャーチ･オルガン2
23		3	チャーチ･オルガン3
24	**[STRINGS/PAD]**	1	ストリングス
25		2	スロー･ストリングス
26		3	ウォーム･パッド
27	**[CHOIR]**	1	クァイア Hoo
28		2	クァイア Doo
29		3	クァイア･パッド

プログラムチェンジのイネーブル/キャンセル

プログラムチェンジの情報を送受信するときはイネーブルに、送受信しないときはキャンセルに設定します。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[PIANO 2]**を押してください。押すたびに設定がイネーブル、キャンセルをくりかえします。

設定	[PIANO 2]の上のランプ
イネーブル	点灯
キャンセル	消灯

電源をオフにすると、イネーブルの設定に戻ります。

コントロール・チェンジ

SP-200のダンパー・ペダルなどの情報を接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からこれらの情報を受信してSP-200をコントロールします。

コントロールチェンジのイネーブル/キャンセル

コントロールチェンジの情報を送受信するときはイネーブルに、送受信しないときはキャンセルに設定します。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、**[SOUND]**スイッチの**[E.PIANO 1]**を押してください。押すたびに設定がイネーブル、キャンセルをくりかえします。

設定	[E.PIANO 1]の上のランプ
イネーブル	点灯
キャンセル	消灯

電源をオフにすると、イネーブルの設定に戻ります。

MIDIデータ・ダンプ

SP-200では音色の設定やエフェクターの設定を外部のMIDIデータファイラー（記憶装置）に保存し、必要なときにSP-200に読み込み、設定を再現することができます。

データファイラーの取扱説明書をよくお読みになり、データを消してしまわないように十分注意してください。

データ・ダンプの実行中は、本体の鍵盤やスイッチに触れないでください。

どのデータがデータ・ダンプで保存されるかは表のとおりです。

種類	データ
シングル・モード	リバーブとコーラスの設定（オン/オフ、効果の深さ）
レイヤー・モード	リバーブとコーラスの設定（オン/オフ、効果の深さ）、音量バランス、それぞれの音色へのダンパーのオン/オフ

データをデータファイラーに保存

1. SP-200のMIDI OUTとデータファイラーのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。
2. データファイラーを操作してSP-200からのMIDIデータを受信待ちの状態に設定します。
3. SP-200の**[TRANSPOSE / FUNCTION]**スイッチを押しながら**[SOUND]**スイッチの**[VIBES / GUITAR]**を押します。それぞれのスイッチの上のランプが点滅し、データ・ダンプ送信待ちの状態になります。
4. **[TOUCH]**スイッチを押します。データ・ダンプが始まり、演奏データがデータファイラーに送信されます。
5. データの送信が終了すると、データファイラーにデータが記録され、通常の演奏ができる状態に戻ります。

データ・ダンプ送信待ちの状態やデータファイラーにデータを送信している間はSP-200から音は出ません。
データ・ダンプを始める前にキャンセルするときは、**[TRANSPOSE / FUNCTION]**スイッチか**[SOUND]**スイッチの**[VIBES / GUITAR]**を押します。

データファイラーからデータを読み込む

1. SP-200のMIDI INとデータファイラーのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。
2. SP-200の**[TRANSPOSE / FUNCTION]**スイッチを押しながら**[SOUND]**スイッチの**[VIBES / GUITAR]**を押します。それぞれのスイッチの上のランプが点滅し、データ・ダンプ受信待ちの状態になります。
3. データファイラーを操作して、あらかじめ保存しておいたSP-200のデータを送信します。データの送信については、データファイラーの取扱説明書をご覧ください。
4. SP-200がデータを受信します。
5. データの受信が終了すると、通常の演奏ができる状態に戻ります。

データダンプ受信待ちの状態や、データファイラーからデータを受信している間は、SP-200から音は出ません。
データ・ダンプを始める前にキャンセルするときは、**[TRANSPOSE / FUNCTION]**スイッチか**[SOUND]**スイッチの**[VIBES / GUITAR]**を押します。

第6章

付録

故障かな？とお思いになる前に

ご使用中に問題が起こった場合は次の事項を確認してください。それでも本製品が正しく動作しない場合は、販売店または、コルグ営業技術課へお問い合わせください。

症状	対策
電源が入らない。	ACアダプターが正しくSP-200とコンセントに接続されていることを確認してください。
音が出ない。	SP-200のボリュームが0になっていないか確認してください。0になっていたら、適切なレベルまでボリュームをあげてください。
	[OUTPUT]端子につないだ機器の電源が入ってるか、ボリュームが0になっていないかを確認してください。
	MIDIのローカル・コントロールがオフになっていないか確認してください。ローカル・コントロールがオフならば、オンにしてください。
音が途切れる。	最大同時発音数を越えています。次項の「最大発音数について」をごらんください。
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本体の音をできるかぎり忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、本機の不良ではありません。
接続したMIDI機器が送信したMIDIデータに応答しない。	MIDIケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。
	MIDI機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを受信していることを確認してください。

最大発音数について

SP-200は前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的にならす仕組みになっているため、最大同時発音数を越えると音が切れてしまいます。SP-200の音色の中には1つの音色でも2つ以上のオシレータ（音源回路の1音分）から、構成されている音色もあります。オシレータが1つから構成されている**[HAPSI / CLAV]**などの音色は最大同時発音数が60音です。データが2つから構成されている**[PIANO 1]**や**[PIANO 2]**のバンク1、2などの音色は最大同時発音数が30音です。また、エフェクトを使用したときは、発音数がリバーブで10音、コーラスで3音ほど少なくなります。

それぞれ、音色やエフェクトの組み合わによって使用可能最大発音数は下記の式で求められます。

（60ーエフェクト使用発音数）÷音色オシレーター数＝使用可能最大発音数

例1: **[PIANO 1]**のバンク1(グランドピアノ1)を選んでリバーブをオンにした場合。
(60−10)÷2=25、使用可能最大発音数25

例2: **[E.PIANO 2]**のバンク2(60 'エレクトリックピアノ1)を選んでコーラスをオンにした場合。
(60−3)÷1=57、使用可能最大発音数57

レイヤーにして2つの音色を鳴らすとき、ダンパーペダルを使用するとき、エフェクトをかけたときなどは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

仕様

鍵盤	88鍵(A0〜C8)ベロシティー付き フルスケール・ハンマー・アクション鍵盤
タッチ・コントロール	ライト(軽め)、ノーマル(標準)、ヘビー(重め)
ピッチ	トランスポーズ、ファイン・チューニング
音律	平均律、キルンベルガー、ヴェルクマイスター
音源	ステレオPCM音源
同時発音数	60(最大)
音色	30(10×3バンク)
エフェクト	リバーブ、コーラス(各3設定)
デモ・ソング	30(10×3グループ)
メトロノーム	テンポ、拍子、アクセント、音量
ペダル	ダンパー(付属) ハーフ・ダンパー・ペダル コルグ DS-1H(別売)
接続端子	OUTPUT(L/MONO、R)、ヘッドホン MIDI(IN、OUT)、ダンパー
コントロール	パワースイッチ、マスターボリューム、リバーブ、コーラス タッチ、トランスポーズ/ファンクション、バンク、サウンド テンポ、メトロノーム、デモ
電源	DC12V、ACアダプター(付属)
外形寸法	1328 x 285 x 122 mm(W x D x H)
重さ	18.5kg
付属品	ACアダプター、ダンパー・ペダル、譜面立て、ヘッドホン
オプション	DS-1H

仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。
MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
Sound Processed with INFINITY™

[SOUND]スイッチ機能一覧図

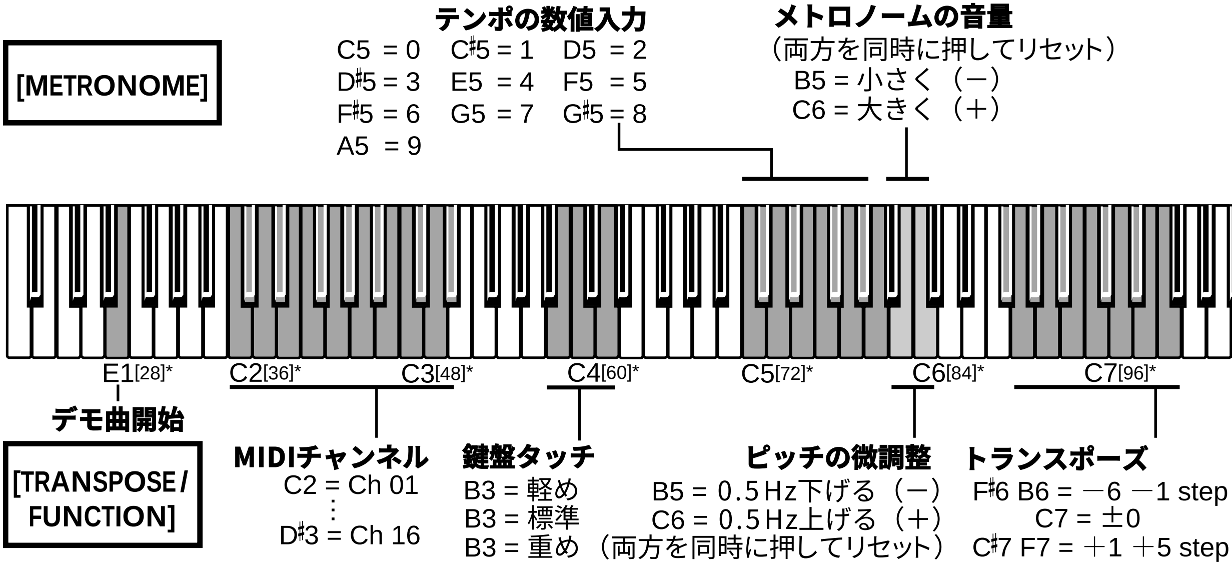
[REVERB]、**[CHORUS]**、**[TOUCH]**、**[METRONOME]**、**[TRANSPOSE / FUNCTION]**の各スイッチを押しながら機能が割り振られた**[SOUND]**スイッチを押すと下記の表の設定ができます。

スイッチを押すと / スイッチを押しながら	[PIANO 1]	[PIANO 2]	[E.PIANO 1]	[E.PIANO 2]	[HARPSI / CLAV]	[VIBES / GUITAR]	[ORGAN 1]	[ORGAN 2]	[STRINGS / PAD]	[CHOIR]
[REVERB]	浅い	標準	深い							
[CHORUS]	浅い	標準	深い							
[TOUCH]	軽め	標準	重め		ヴェルクマイスター	キルンベルガー				
[METRONOME]	2/4拍子	3/4拍子	4/4拍子	6/4拍子	アクセント	ベル音			メトロノーム音量小	メトロノーム音量大
[TRANSPOSE / FUNCTION]	ローカル・オフ	プログラム・チェンジ	コントロール・チェンジ			データ・ダンプ				

鍵盤機能一覧図

[METRONOME]または、**[TRANSPOSE / FUNCTION]**のスイッチを押しながら機能が割り振られた鍵盤を押すと下記の図の設定ができます。

[　]*はMIDIノートNo.です。



[デジタルピアノ]
SP-200

MIDIインプリメンテーションチャート

2001.11.11

ファンクション…		送信	受信	備考
ベーシックチャンネル:	電源ON時	1	—	
	設定可能	1—16	1—16	
モード	電源ON時		3	
	メッセージ	×	×	
	代用	**************		
ノートナンバー:		15—113	0—127	
	音域	**************	21—108	
ベロシティ:	ノート・オン	○ 9n, V=1—127	○ 9n, V=1—127	
	ノート・オフ	×	×	
アフタータッチ:	キー別	×	×	
	チャンネル別	×	×	
ピッチ・ベンダー		×	○	
コントロールチェンジ	7	○	○	ボリューム *1
	11	×	○	エクスプレッション *1
	64	○	○	ダンパーペダル *1、*3
	66	×	○	ソステヌートペダル *1
	67	×	○	ソフトペダル *1、*3
	91	○	○	リバーブ *1
	93	○	○	コーラス *1
	120, 121	×	○	オールサウンドオフ、リセットオールコントロール
プログラムチェンジ:		○ 0—29	○ 0—29	*2
	設定可能範囲	**************	0—29	
エクスクルーシブ		○	○	デバイスインクワイヤリー、サウンドデータダンプ
コモン:	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアルタイム:	クロック	×	×	
	コマンド	×	×	
その他:	ローカル・オン/オフ	×	○	
	オール・ノート・オフ	○	×	*4
	アクティブセンシング	○	○	
	リセット	×	×	

備考
*1：コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。
*2：プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。
*3：ハーフペダルの出力値（0, 38, 74, 127)。
*4：レイヤー・モードから、シングル・モードに戻るときと、ローカル・オフにしたとき送信する。

モード1:　オムニオン、ポリ　　モード2:　オムニオン、モノ
モード3:　オムニオフ、ポリ　　モード4:　オムニオフ、モノ

○:　あり
×:　なし

アフターサービス

■ 保証書
本製品には、保証書が添付されています。お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■ 保証期間
お買い上げいただいた日より一年間です。

■ 保証期間中の修理
保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■ 保証期間経過後の修理
修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理を依頼される前に
故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理時のお願い
修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ ご質問、ご相談について
アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!
この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です
This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口　TEL 03(3799)9086

サービス・センター:	〒143-0001	東京都大田区東海 5-4-1明正大井5号営業所 コルグ物流センター内	TEL 03(3799)9085
名古屋営業所:	〒466-0825	名古屋市昭和区八事本町 100-51	TEL 052(832)1419
大阪営業所:	〒531-0072	大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5番館7F	TEL 06(6374)0691
福岡営業所:	〒810-0012	福岡市中央区白金 1-3-25 第2池田ビル1F	TEL 092(531)0166

SP-200 取扱説明書

KORG Ⓙ ④

KORG 株式会社コルグ
■本社：〒168-0073東京都杉並区下高井戸1-15-12
URL: http://www.korg.co.jp